

Zun 寸 dō 胴

附属図書館ホームページ URL : <http://www.gifu-u.ac.jp/~gulib/>

寸胴は、焼物を形成する際の途中の形で、円筒形の状態のもの。陶器が作られる際に親型となる焼物の原点であると言われている。附属図書館ロビーに、この寸胴が陶器へと成長するさまをモチーフにした「寸胴譜」と名付けられた大きな陶壁画があり、誌名の「寸胴」もこれに因る。

目 次

館蔵資料紹介

生き残ったギリシャ古典	小澤 克彦	1
展示会報告		3

電子ジャーナルの導入について	4
図書館の複写サービスと著作権について	6

館蔵資料紹介 25

生き残ったギリシャ古典...「写本」の運命...

小澤 克彦



私達の文化の故郷は、紀元前五世紀前後に興隆していた古代ギリシャにあることは良く知られています。

その遺産は詩・文学から悲劇・喜劇、哲学・歴史・政治、生物・物理・天文・医学等今日のほとんどすべての文化・学問領域に及びますが、その原典の重要なものが今に伝わり、図書館の主要な棚を作っています。しかし、その原典を手に取りときれいな活字で印刷されて「全集」「著作集」などとして並べられていますので私達はいよいよこれは紀元前の大昔からこんな具合に残されてきたのだと錯覚してしまい勝ちです。

しかし、活版印刷などできたのは近代になってのことです。それなのに紀元前の著作が二千何百年も経て何でこんな具合にたくさん残されてきたのでしょうか。そして少し歴史に詳しく見れば、ローマ帝国の時代にキリスト教が「国教」にされるとギリシャ文化は「異教の文化」として排撃され、プラトンの学園も閉鎖され一切のギリシャ的な学問が廃棄されたばかりかローマ人さえ熱狂させていたオリンピックまでも廃止されたのではなかったのか、なのはどうしてこんなにたくさんの古代ギリシャの文献が、といがる筈です。

ことはそんなに簡単ではありませんでした。たとえばその文献(写本)とその思想の運命を「アリストテレス」を例にしてちょっと辿ってみましょう。

古代ギリシャの時代「印刷術」なんてまだ存在していません。ですから本は「手で写される」しかありません。本屋さんはずでにありました。彼らはたとえば奴隷を使って「写本」をたくさん作って売り物にしていたのです。ギリシャ時代は奴隷といえども読み書きができましたけれど、その能力に優劣があるのは当然でここにすでに「不正確」な写本の存在があり得ました。しかも「売れる本」はたくさん写本が作られますけれどそうではないものは少ししかつくられません。これは現代でも同じです。さてこんな具合に各地で時代ごとに写本が作られていくわけですが、量は知れていますし、またこんな具合ではたとえば「アリストテレスの著作」として統制もとれず不正確なままのアリストテレスが流布してしまいます。そこで紀元前一世紀頃にその著作が学者によって「編纂」などされています。しかしもうすでにここで初期の作品は散逸していました。ですから現代の私達もアリストテレスの初期作品はごく一部しか持っていない

ん。

他方、ローマ皇帝がキリスト教を受け入れてもしばらくはアテネの学問のメッカであったプラトンのアカデメイアは存続していましたが、ついに529年に閉鎖ということになりそこにいた多くの学者達は追放されてしまいました。アリストテレスの注釈で知られたシンプリキオスも小アジアに逃れます。こうしてギリシャの学問は西洋から消えてしまうのでした。

しかし、ローマ帝国の西側がゲルマン人に占拠されて滅亡した後も存続した後期の東のローマ帝国、いわゆる「ビザンティン帝国」は「ギリシャ回帰」をしていて民族的にもギリシャ人が中心で言語も教育もギリシャ語・ギリシャ文献となっていました。ですから幸いにもここにギリシャ文献は残されることになったのです。そしてビザンティン帝国ではギリシャ文献の研究も当然なされていて、アリストテレスも新たに研究されていました。

やがてその影響はビザンティン帝国領内である中東に向き、アリストテレスはシリア語に翻訳されていきます。もちろん公用語はギリシャ語でしたが地方ごとに現地の言語はあるわけで、現地での翻訳がされていたのです。ところが、八世紀にはいったころそのシリアは南から侵略してきたアラブ・イスラムに占拠され、こうしてアリストテレスは今度はアラビア語に翻訳されていきました。そしてそのアラビアに歴史的に著名なアリストテレス研究家が何人か生まれてきます。そしてそのアラブは西欧にまで入っていたので、やがて西欧へとその影響を伸ばしていきます。しかし単純には伝わりません。言葉の問題があるからですが、これもヘブライ語を経てラテン語に翻訳されることで西欧に入っていきます。ですから、中世のアリストテレス研究で有名なイヴン・ルシュドの西欧への影響について語られる時「ギリシャ原典のシリア語訳の、そのアラビア訳の注釈のヘブライ訳のラテン訳」などと紹介される始末です。実際、イヴン・ルシュドはギリシャ語は読めずまたシリア語もできませんでした。彼はそのアラビア語訳だけで研究していたのです。ところがこのアラビア語は西欧の人達は読めないものですから、西欧への伝播のためにはどうしてもとにかくラテン語にもってこなければならなかったのです。こんな具合にしてまでもってこられるには、中世の西欧にはとりたてた知的文化が全くなかったからであり、学者達は未知の知的成果に飢えていたからです。

以上のような具合に古代ギリシャの思想・文献は西欧に入っていくのでした。一方、イスラムはここまで来た

ところでイヴン・ルシュド達の学問はイスラムの教えに有害であるとしてこれを禁止し彼を追放してしまいました。相当にギリシャ化していたアラブだったのでここでギリシャ文化の遺産の発展はアラブから消えました。

今アリストテレスで紹介しましたがこれは実はアリストテレスにとどまらず、とりわけ医学やさまざまな自然科学においても同じ経路があったのです。西欧の近代化つまりギリシャ化にはこんな「アラブの経由」という大きな道があったのでした。

他方、そうこうするうち実質ギリシャ帝国であったビザンティン帝国はオスマン・トルコによって滅亡の危機に瀕し、そこで西欧に援助の使節を送ってきますがその中に学者がおりかれらは直接古代ギリシャ文化を西欧にもたらしたのでした。すでにアラブ経由でギリシャ古典のすばらしい価値に気付いていた西欧の人々は「本物を学べる」この絶好の機会を逃すまいとギリシャ語・文化の教授を要請し、若い学生達は熱心にこれを学び、様々のギリシャ古典のラテン訳が試みられていきます。首都のコンスタンティノポリスに留学するものもたくさん出てきます。こうしてギリシャ語の文法書もつくられ、辞書もできてギリシャ古典への道は大きく開かれていきます。こうした経緯の中でやがてビザンティン帝国が滅亡した時、多くの学者が西欧、特にイタリアに逃れてきて「アカデミア・プラトニカ(プラトン学院)」が設立されていくのです。つまりプラトンのカデメイアの復興です。

ということならここに「写本」が大量に残されても良さそうだったのですがそうはなりません。写本そのものの数がたかがしれています。またそれは商売人によって一部の人たちの手に売り払われ、あるいは戦禍などで散逸していったからです。今日に残されたギリシャ文献の「写本」というのはそうしたものの一部か、あるいはビザンティン帝国の末裔である現代ギリシャの各地の教会にひっそりと残されていたものです。しかし多くは不完全で、数箇所のにこされた写本を付け合わせたりしてやっと「原形」が復元されたり数がそろったり、といった状況なのです。つまりどの本も数カ所に部分的に残されていた写本を付け合わせて全体をそろえ、そして正確な文章や語句を読みとり、やっと書物としての形や全集の形に復元できたものなのです。

他方「写本」というのは当然「読む価値があると判断されたもの」しか作られないわけで文献は歴史的に淘汰

されていきます。悲劇のアイスキュロスやソポクレスのものが「七編」しか残されていないのは「代表作」として編纂された「選集」としてのみ残されてきたからです。エウリピデスがもっとたくさんなのはその他に全集の一部が残されたからでこれは歴史を貫く彼の人気を反映しているでしょう。こんな具合にして現在「ギリシャ古典双書」といったものが編纂されているのですが、いずれも二千数百年の歴史の荒波をくぐり抜けてきた逸品ばかりであり、近代以降現在の文化の源として重要なものとなったのです。



(なお、写真は「アリストテレスの故郷、ギリシャ・スタゲイラの遺跡にて」です)

【関係所蔵図書】

1. 西洋古典叢書(刊行中) 京都大学学術出版会
イソクラテス弁論集 本館3階 131 | | Sei
ギリシア史 本館3階 131 | | Sei
2. ギリシア悲劇全集 全4巻 人文書院
本館3階 991 | | Gir
3. ギリシア喜劇全集 全2巻 人文書院
本館集密3 992 | | Gir
4. アリストテレス全集 全17巻 岩波書店
本館集密4 131 4 | | Ari
5. プラトン全集 全11巻 角川書店
本館集密3 131 3 | | Pla

(おざわ かつひこ : 教育学部教授)

展 示 会 報 告

1. 特別展示「康熙字典」

(平成 15年7月23日～11月29日)

黒木登志夫学長から由緒ある康熙字典の寄贈を受けたのを機会に、附属図書館に所蔵する同種字典を一同に邂逅させ、附属図書館2階ホールで特別展示を行いました。

学長から寄贈していただいた文久3年(1863年)出版のものほか、江戸時代末期のものが中心ですが、中国で出版されたや出版年などが不明のものも含め10種類ほどで展示を行いました。

開催時期が夏休みにかかったにもかかわらず、多くのかたに足を止めていただきました。

なお、森田晃一教授(留学生センター)、松田之利教授(地域科学部)、安東俊六教授(教育学部)、松尾幸忠助教授(地域科学部)に解説の作成や資料提供にご協力いただきました。

2. 特別資料展「鈴木祥一郎名誉教授と聖書」

(平成 15年12月12日～平成 16年1月30日)

鈴木祥一郎名誉教授(元医学部長)から、ご自身で執筆された注釈書2冊のほかヘブライ語聖書関連図書の寄贈を受けたのを機会に、聖書関連資料を集め2階ホールで展示を行いました。

先生は、医学部で微生物学を研究されるかたわら、聖書の研究にも熱心に取り組み、ヘブライ語聖書の注釈を出版されました。

今回は、ヘブライ語聖書関連図書のほか、欽定英訳聖書やその他の各国語訳聖書等もあわせて展示を行いました。

なお、展示資料の一部は、東京外国語大学附属図書館のご好意により特別に借り受けたものです。

電子ジャーナルの導入について

附属図書館では、ここ数年電子ジャーナルの導入に取り組んできており、利用できるタイトルも年々増加してきます。2003年には約2,700タイトル以上の電子ジャーナルを提供してきました。以前はCD-ROMで提供されるものもありましたが、現在ではインターネットを介してオンラインで提供されるのが普通になっています。また、出版される電子ジャーナル自体も増加しています。

電子ジャーナルのメリット

電子ジャーナルは、これまでのプリント版の雑誌を電子化してコンピュータ上で利用できるようにしたのですが、従来の雑誌に比べて、

- ・学内のインターネット端末からなら、24時間利用可能で、かつ同時に複数の人が利用できる
- ・未着や欠号がおこらず、プリント版よりも早く文献が入手できる
- ・検索機能や他の情報へのリンク機能があり、キーワードから検索したり、引用文献をその場で読むことができる

などのメリットがあります。これにより、研究に必要な情報の収集を質的にも量的にも向上させることができると考えられます。また、図書館にとっては配架スペースを節約できる利点もあります。

反面、学内に情報が蓄積されているわけではないので、出版社から提供されなくなったり講読を中止したときのバックナンバーへのアクセス等で問題点が残っているのも事実で、今後の課題となっています。

電子ジャーナルパッケージ

学術雑誌、特に外国雑誌の価格は為替レートの変動を除いても毎年10%前後の値上がりが続いており、本学でも講読するタイトル数は減少しつづけてきました。

一方で、オンラインで配信される電子ジャーナルは増加し、海外の大手出版社等では数十から数百タイトル以上を一括して利用できる電子ジャーナルパッケージが多くなってきました。

さらに、こうした電子ジャーナルパッケージをより有利な条件で利用するためのコンソーシアムの形成が進み、電子ジャーナルを導入しやすい環境が整ってきました。

こうした状況を背景に、本学図書館でもここ数年、特に外国雑誌の価格高騰と講読タイトル数の減少への対応

策の一つとして、コンソーシアムへの参加とパッケージの導入を積極的に行い、利用できる電子ジャーナルのタイトル数を急速に増やすことができました。

例えば、2003年の場合、本学ではSpringer社のプリント版40誌を約830万円で講読しましたが、併せて同社の電子ジャーナルパッケージも導入し、プリント版での購読誌も含め約450タイトルの電子ジャーナルを約70万円で利用しています。

こうしたパッケージを導入することで、学内で利用できるタイトルが大幅に増えるとともに、過去にやむを得ず講読を中止したものが再び利用できるようになった例もかなりあります。

導入に係る問題点

電子ジャーナルの価格の算定方法は出版社によって異なり、複雑な体系になっていますが、今のところ、プリント版の講読の減少を避けるために、講読しているプリント版の継続を条件としてくる場合が多く、電子ジャーナルパッケージが雑誌価格の高騰対策の切り札といえる状況にはありません。現在講読しているプリント版のタイトル(学部等で購入のものも含む)を引き続き講読し続けることを条件に電子ジャーナルは有利な条件で導入できるという状況です。従って、プリント版購入にかかる経費の負担は依然として重いままになっています。

附属図書館では、プリント版の購入中止を避けるための努力が続けるとともに、電子ジャーナル、特に電子ジャーナルパッケージは、大学単位で契約・導入し、学内の端末から同条件で利用できること、一部のプリント版の講読を中止するとパッケージ全体が利用できなくなる場合もあることから、その導入・維持経費の負担については、従来のプリント版とは異なる方法を検討しています。

また、電子ジャーナルパッケージの場合は、本学で必要度の高いタイトルとそうでないタイトルが混在することになり、単純にタイトル数とパッケージ全体の価格だけでは評価できない側面もあります。さらに、現段階では、利用できる電子ジャーナルの分野が自然科学系に偏っているもの事実です。

このため、パッケージの選定に当たっては、利用状況の調査など、慎重な検討が必要となります。

今後について

このように、さまざまな問題点や不確定要素を抱えている電子ジャーナルですが、情報収集の際の利便性を考えると今後ますますその比重は大きくなっていくと考えられます。

実際本学でも、2003年は約2,700タイトル以上の電子ジャーナルを提供してきましたが、利用件数の把握ができていない SCIENCE DIRECT (約1,800タイトルのパッケージ) では、各月ともほぼ前年の倍以上の利用(フルテキストのダウンロード)があり、10月には1ヶ月間の利用が1万件を超えています。

2004年は下のよう約2,900タイトルの電子ジャーナルが提供できる予定ですが、本学で利用できる電子ジャーナルのタイトル数が他の同規模大学に比べ決して十分といえる状況にはありません。附属図書館では教育・研究・学習環境の整備充実の点から今後も電子ジャーナルの導入に積極的に取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



平成16年度導入予定の電子ジャーナル

- 1. ScienceDirect
Elsevier Science社が提供する電子ジャーナルパッケージ。科学・技術・医学・社会科学分野の約1,800誌。
- 2. Nature
Nature本誌, Natureリサーチ誌各タイトル(8誌), Natureレビュー誌各タイトル(6誌)の計15誌。
- 3. SpringerLink
Springerグループが提供する約450誌。
- 4. ProQuest Health and Medical Complete
臨床系商業誌を中心とした約500誌。
- 5. Cambridge University Press
Cambridge University Pressが提供する全分野175誌。

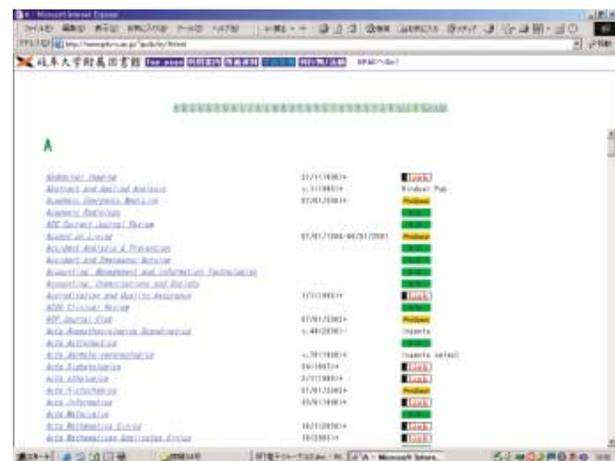


電子ジャーナルの利用

電子ジャーナルは以下の手順で、図書館ホームページから利用できます。(学内のみ)

トップページ右欄の「学内専用 Service」の「電子ジャーナル」をクリック。

「電子ジャーナルリスト」のページが表示されるので、利用したいタイトルの先頭の文字をクリック。利用したいタイトルをクリック。



なお、電子ジャーナルを利用する際には、次のような点に注意してください。

詳細については各出版社のホームページで確認してください。

電子ジャーナルの利用は、原則として本学の教職員・学生に限られ、かつ学内にある端末からの利用に限定されています。

個人の調査研究のための利用に限られます。

大量の論文（例えば、雑誌1冊分の全ての論文）をダウンロードすることは禁止されています。

プログラム等により自動的にダウンロードすることは禁止されています。

大量の論文を電子的にハードディスクなどに保存することは禁止されています。

論文の電子ファイルを他の利用者へ送信することは禁止されています。

ダウンロードした論文をウェブページ上に公開することは禁止されています。

図書館ホームページの URL

<http://www.gifu-u.ac.jp/~gulib/>

(情報サービス課)

図書館の複写サービスと著作権について

図書館に所蔵する資料は、著作権法上認められた範囲内で複写ができることになっています。具体的には、著作権法第31条により、所蔵する図書館資料のうち著作権のある著作物（著者の死後50年を経過していない著作物など）は、以下の条件で複写することができますとされています。

公表された著作物の全部ではなく一部分（著作物全体の半分を超えない程度）であること。

定期刊行物に掲載された個々の論文その他の記事については、その全部を複写できるが、発行後相当期間（次号の発行まで、あるいは発行後3ヵ月）を経たものであること。（最新号の掲載論文は複写できません）

複写部数は、利用者一人につき一部のみであること。

調査研究のためであること。

なお、有償無償を問わず、再複写したり頒布したりすることはできません。

図書館の資料の複写は、所定の文献複写申込書に必要事項を記入の上、制限事項を遵守して行ってください。

また、複写し終わった資料は、必ず書架の元の位置にお戻しく下さい。

.....

校費用複写機（カード専用）は、2階雑誌複写室から、同じく2階新着雑誌架前に移動しました。

利用手続、機器の使用方法はこれまでと同じです。